

2-5-7

CTで測定した内臓脂肪量の間人ドックにおける取り扱

(財) 関西労働保健協会附属千里LC健診センター¹⁾
(財) 関西労働保健協会附属アクティ健診センター²⁾

○中川 ^{なかがわ}善雄^{よしお}¹⁾、寺前 直樹¹⁾、三崎 文夫¹⁾、平川 茂¹⁾、
望月 茂²⁾、藤井 寿仁²⁾、因 美弥子²⁾、富田 照見²⁾、
松岡 謙二²⁾

【目的】 CTで測定した内臓脂肪量と腹囲測定値との関連性について検討した。

【対象】 2007年4月より2010年3月までに腹囲測定と同時に内臓脂肪量を測定した1008名(全受診者の4.3%：男性618名、女性390名)を対象とした。

【結果】 内臓脂肪量100cm²以上は276名(男性233名、女性43名)で、そのうち男性205名(88%)、女性24名(56%)が腹囲基準に該当した。内臓脂肪量100cm²未満は732名(男性385名、女性347名)で、そのうち男性197名(51%)、女性317名(91%)が腹囲基準に該当しなかった。内臓脂肪量100cm²以上で腹囲基準に該当していたもののうち、男性169名(82%)、女性17名(71%)に何らかの生活習慣病関連異常所見を認めた。内臓脂肪量が多くかつ腹囲基準に該当するものでは積極的な介入が必要であると考えられた。